



## テュートリアル課題 目が黄色いと言われた小林さん

|     |   |
|-----|---|
| 著者名 | 東京女子医科大学  |
| 雑誌名 | テュートリアル課題   |
| 巻   | 1999  |
| 号   | B3  |
| 発行年 | 1998-11-15  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10470/1245">http://hdl.handle.net/10470/1245</a> |

1999年度

Block 3 テュートリアル課題

課題番号 5

目が黄色いと言われた小林さん



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

TWMU Block 3 消化器内科学教室 林 直諒  
消化器外科学教室 高崎 健

資料 1：診察所見

症例： 小林さん 40歳

主訴： 黄疸

現病歴： 2-3日前より、発熱、全身倦怠感があり  
仕事を休んでいた。  
妻に、目が黄色いと指摘され来院した。

既往歴： 特記すべきことなし

家族歴： 特記すべきことなし

嗜好： アルコール ビール (一)  
タバコ (一)

診察所見： 意識清明、体格栄養良好、

血圧 130/70、脈拍 78/分、 体温 36.6℃

眼瞼結膜 貧血なし、眼球結膜 黄疸あり、

腹部 平坦、肝脾触知せず、下肢浮腫なし、

神経学的所見は異常なし

資料 3: 肝炎ウイルスマーカー

IgM anti-HA (十)

IgG anti-HA (一)

HBsAg (一)

HBsAb (一)

IgM anti-HBc (一)

HCV抗体 (一)

HCV RNA (一)

資料 4: 腹部超音波検査

以下はチューター用

- (1) 肝は大きな変化は認めない。
- (2) 胆嚢壁は浮腫状に肥厚し、内腔は狭くなっている。  
(この変化は急性肝炎に特徴的である)
- (3) 胆管拡張は認めない。  
閉塞性黄疸では、胆管は拡張する。

資料 5：腹腔鏡像・肝生検所見

以下はテューター用

腹腔鏡像：

肝は赤色調で、軽度腫大、壊死を反映する  
小陥凹を認める。Kalk分類：大赤色肝

肝組織所見：

門脈域の炎症は軽度で、高度の肝実質の壊死、  
炎症性変化を認める。